

第10回北九州市まち・ひと・しごと創生推進協議会での主な意見

総合戦略全般

- ・次期戦略の策定にあたっては、高齢者を元気にすることも必要。健康寿命を延ばすことも考えてはどうか。
- ・日本全体で少子高齢化が進む中で、「人口を増やす」という話は無理がある。人口増加ということではなく、「住みたいまち」にしていく方が重要だと思う。
- ・数値目標だけが独り歩きし、数値を上げることが目的化することはよくない。
- ・まち・ひと・しごと創生総合戦略は、福岡市との比較で何をするのかを考えるのではなく、市としてのプライオリティをしっかりと考えることが重要。
- ・転出の理由がわからないまま施策を進めるのではなく、まずは、転出の理由を調べる必要がある。

I 北九州市にしごとをつくり、安心して働けるようにする

- ・各大学の学長、市長、商工会議所会頭が集まり、地元就職を真剣に考えることが必要。主なターゲット企業は中堅企業。マッチングさえうまくいけば、地元就職は伸びる。インターンシップの実施も大事。
- ・経済を活性化するために、賃金を上げる必要があるがなかなか経営者側の事情を聴くと難しいところもある。しかし、お金を使わないと経済は回っていかない。お金のある高齢者にお金を使わせるアイデアを考える必要がある。
- ・奨学金返還支援制度は、制度を利用して市内就職した若者が「ここはいいまちだ」と実感し、良さを発信することでまちのイメージが向上し、更なる人の流れにつながるくらいまで継続したほうがいいのでは。短期的なKPI達成のための手段では制度をなくした時のリバウンドが怖い。
- ・企業は即戦力の人材を求めすぎる傾向になる。一時的にはよいが、それでは持続性がない。
- ・産業構造上仕方ないかもしれないが、若者の求める仕事と北九州市にある仕事にはギャップがある。

Ⅱ 北九州市への新しいひとの流れをつくる

- ・企業誘致を進めていくにあたっては、様々なルートを活用して情報収集を進めるべき。誘致した際には、従業員に住民票を移してもらうことが重要。
- ・北九州市には、最先端のオフィスビルが少なすぎる。
- ・北九州市は、いいものを持っている。銀行からは、北九州市には経済基盤がしっかりしている企業が多いと聞いている。性格的にまじめでPR下手である。
- ・折尾には高校、大学が近辺にあり、その学生数は1万人ほどといわれている。各学校の強みがたくさんあるので、点が線、線が面へとつながっていけばよい。点がつながらないのが弱み。
- ・外国人観光客の誘客及び観光消費額の拡大に向け、サイクルツーリズムや外国人観光客のニーズに基づいた体験プログラムの造成、予約・決済体制の構築に取り組んでいく。今後とも観光資源の魅力向上のため連携を図りたい。
- ・高度外国人が増えてくると、彼らの子どもに対する教育も重要なファクターになる。彼らにとっても満足いく教育が提供できるかどうかが鍵。
- ・教員の仕事は大変だと言われている。教員の質が上がれば、子どもの学力の向上にもつながってくると思うので、教員の待遇等がもっとよくなればよいと思う。

Ⅲ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- ・出生率の高さは子育て環境がいいという要因からであり、単に「子育て環境がいい」のPRだけでなく、その成果として出生率が高いことを併せてアピールすべき。
- ・女性の就業分野拡大のため、令和元年度より建設業における女性活躍推進のための活動への支援をすることとしている。北九州市圏域は建設業や運輸業といった女性の参画が少ない分野の産業比率が高いため、女性の就業分野拡大に向けて、連携・協力を適宜行いたい。
- ・女性の雇用について、現場の仕事は、更衣室等のハード面を整えてもなかなか人が集まらないし、途中でやめていく人も多い。企業内保育所を設けている企業もあるので、企業同士で話を聞ける場があるといいと思う。
- ・「お互いさま」の気持ちをもって、若い世代や高齢者がお互いのできることを役割分担していろいろなことに取り組む地域になるといいと思う。

IV 時代に合った魅力的な都市をつくる

- ・北九州市のまちづくりの観点でいうと、小倉駅北口からスタジアムへのエリアの活性化が必要だと考える。過去にぎわっていた堺町や鍛冶町は、今までと違った集客の為のアイデアが必要である。小倉駅南口から鳥町商店街のにぎわいは、とても良い。
- ・あるシンクタンクの調査によると、「自分のまちが好きか」という質問では政令市上位だが、「自慢できるか」という項目については政令市最下位クラスになるとのことだった。「好き」は対内的な働きかけである一方、「自慢できる」は対外的な働きかけであり、同じ方向性は向いていない。
- ・若者の声を聞くことは大事。シビックプライドが高い人は高くなってきたきっかけ、また低い人はそのネガティブな要素は何なのかを明確にし、それを改善すべきである。単に人を増やせばいいものでない。市外の人々の声も聞くべき。
- ・サステイナブルな都市を目指していくためには、教育に力を入れることが重要。特に、幼児教育、小中の義務教育の中で他の都市との違いを与えることで、将来戻ってくることにつながるのではないか。
- ・北九州芸術劇場は、福岡から観に来るほど人気がある。芸術、文化でも逆手の発想が必要で、特色のあるものを北九州に作れば周辺市町から北九州を訪れるようになる。
- ・一人ひとりが当事者意識をもって取り組むことが大切。大きなグループだと意見を出しにくい環境になりやすく、自分のこととして考えない。小さなつながりを充実させることが、町内や校区から区へ、そして市全体につながっていくと思う。

V 地方創生推進のための国の施策への対応

- ・国家戦略特区の「北九州高度産業技術実証ワンストップサポートセンター事業」等の取組は、ものづくりの本市で大切な取組である。これを活かして経済を発展させてほしい。

まち・ひと・しごと創生推進協議会構成員について

- ・協議会の構成員の意見が若者や女性の一般的な意見と言えるのか。
- ・経営者側と労働組合側のちょうど真ん中の部分の声が必要か。具体的には、大企業の孫請けをしている 50 人規模の会社で 10 年目の 32~33 歳の方々の声を聞くのが重要。